

researchmapを用いた分析例

2014/12/19

国立情報学研究所

社会共有知研究センター

新井 紀子

目次

researchmapを用いた分析例

1. はじめに

2. 職種と人数

本資料の目的

- 本資料は、日本の研究者に関する情報基盤・データ整備ができていれば、その都度アンケート等を実施することなく、即座に状況分析ができるということを示すために、researchmapに登録されているデータを基に、調査分析を試みたものである。
- 現時点ではresearchmapのデータは不完全である(全ての研究者がデータを登録しているわけではない)ため、本資料の数値が日本の実態と完全に一致しているわけではないことに留意して、本資料を参照していただきたい
- researchmapのデータがさらに整備されれば、より実態に即した分析が可能になる。競争的資金等の研究課題の男女別、分野別調査、大学の特徴分析等。

目次

researchmapを用いた分析例

1. はじめに

2. 職種と人数

女性研究者の採用目標

- 第4期科学技術基本計画に掲げた期待される女性研究者の採用目標は以下のとおり
- 「自然科学系全体としては
25%
(理学系20%、工学系15%、
農学系30%、保健系30%)」

右図出典: 情報システム研究機構 男女共同参画推進委員会
資料 (<http://danjo.rois.ac.jp/activities/>)

以下のデータに基づいて文部科学省において作成。

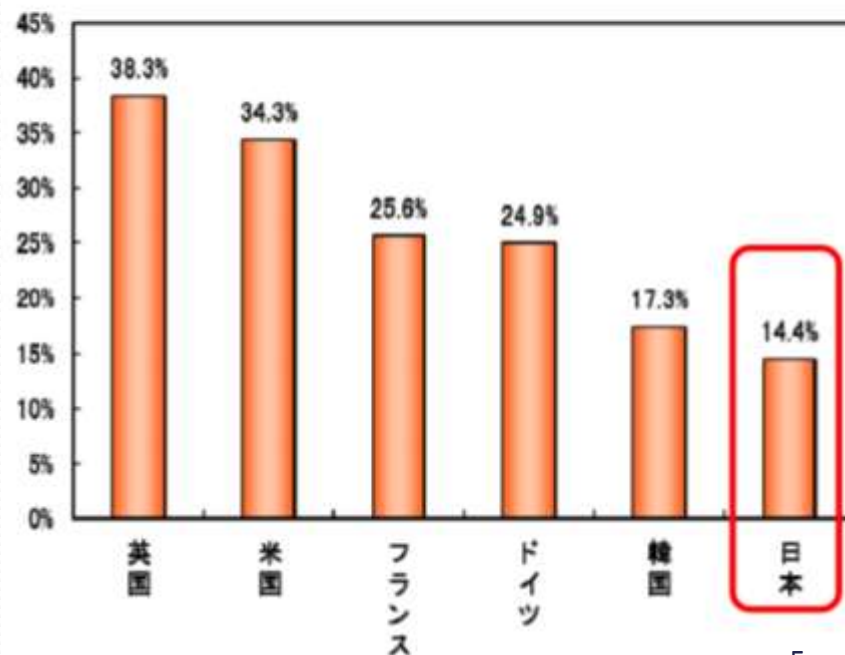
総務省統計局「平成25年 科学技術研究調査報告」(日本: 平成25年時点)

「OECD “Main Science and Technology Indicators”」

(英国: 平成22年時点、フランス: 平成22年時点、ドイツ: 平成21年時点、韓国: 平成23年時点)

「NSF Science and Engineering Indicators 2006」(米国: 平成15年時点)

各国における女性研究者の割合

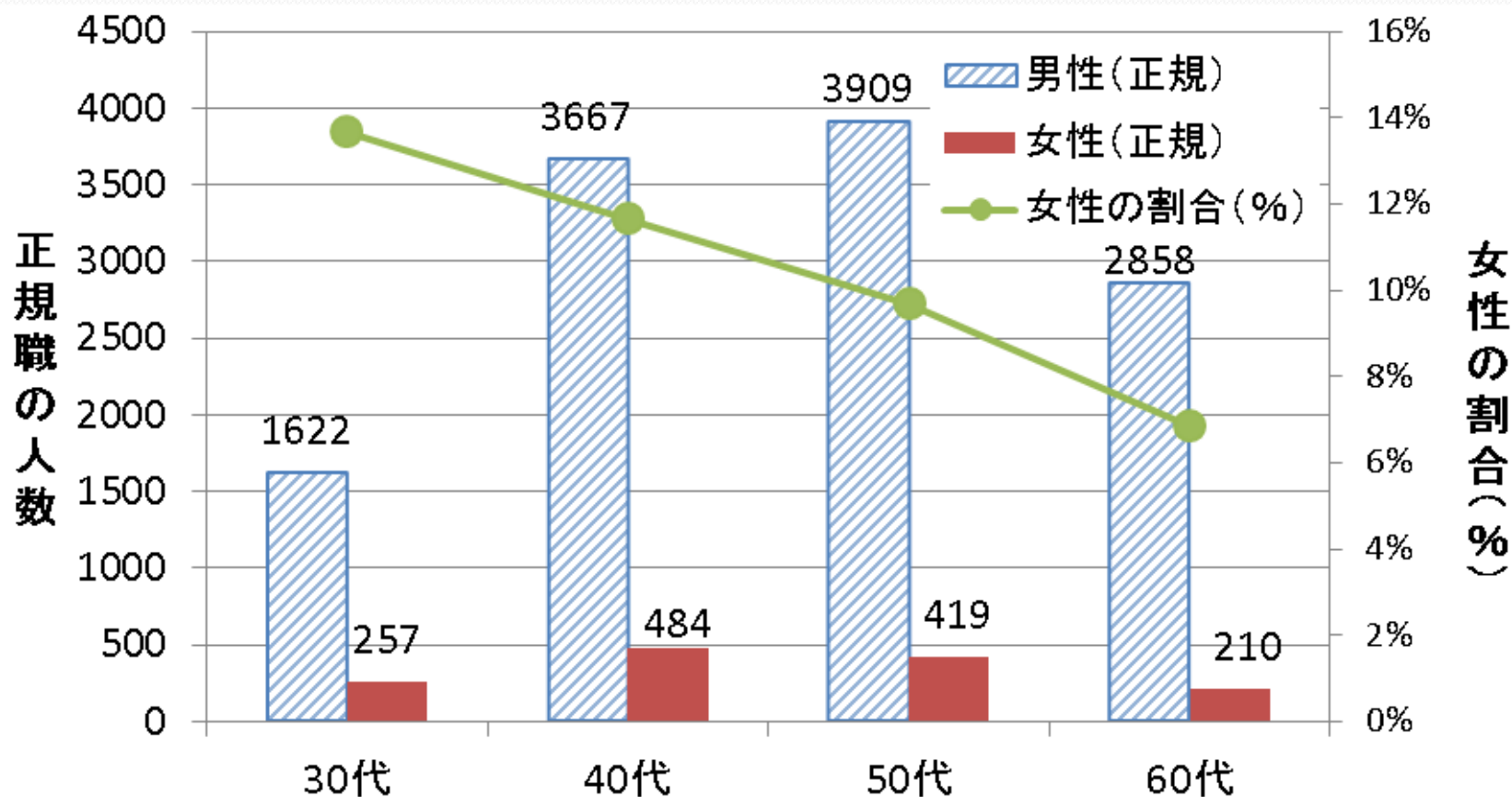


集計条件 (researchmapの女性の割合)

- 対象機関: 研究大学強化促進事業の採択22機関のうち、researchmapの登録率が正規職で70%を超えた14機関
- 対象データ: 上記の機関の研究者のうち、性別、生年月日、職名の登録があり、かつ職名が公開であるもの
 - 総数 (researchmap全体) : 約239,500
 - 内、性別、生年月日、職名の登録有: 157,399
 - 内、14機関における対象データ: 18,114
- 職名に基づき、以下の3区分で分類
 - 正規職: 教授、准教授、講師、助教
 - 特任職: 特任教授、特任准教授、特任助教、研究員、その他
 - 大学院生

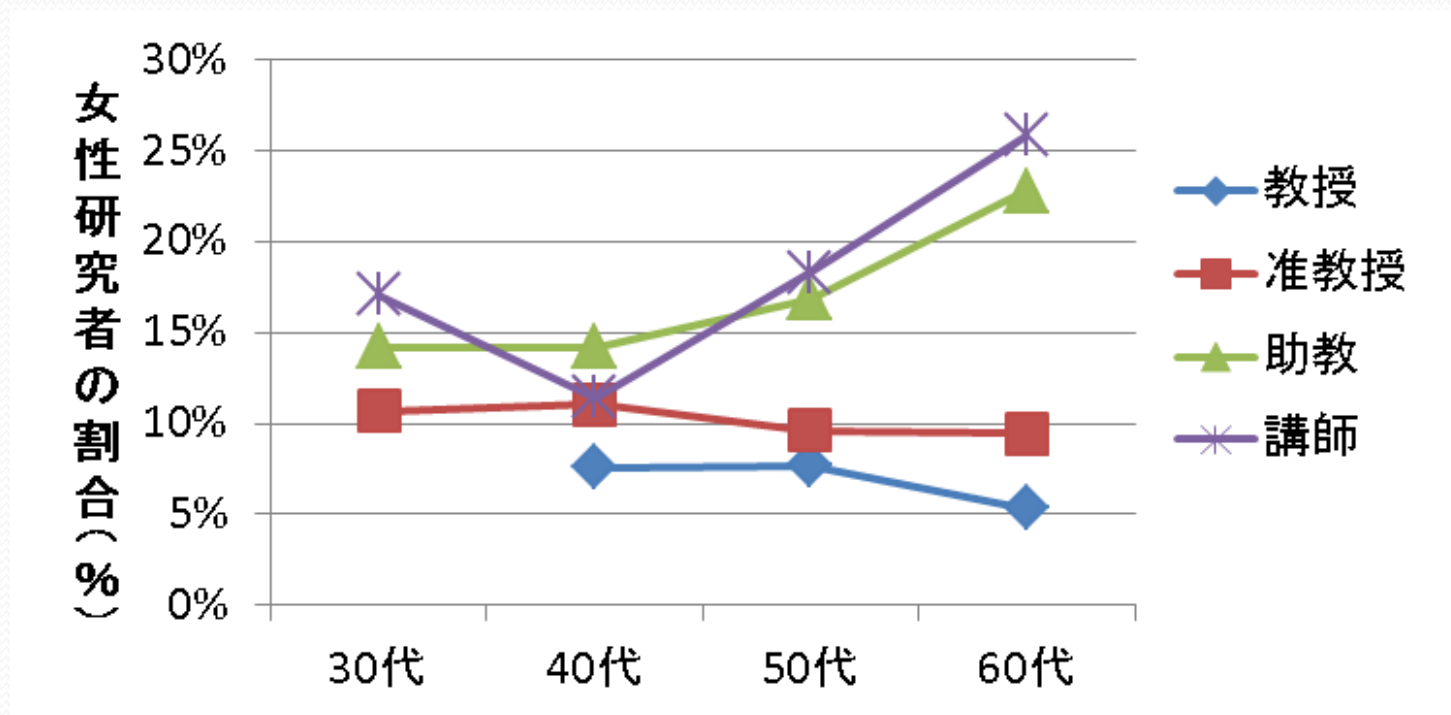
正規職の女性研究者は25%以下

- どの年代でも正規職の女性研究者の割合は25%を下回る
- 年代が高いほど割合も下がる



高い職位ほど、女性研究者は少ない

- 助教、講師では15～20%前後であるのに対し、教授、准教授では5～10%前後と低い



女性は特任職に多い

- 機関ごとに、以下の2点をプロット
 - 30代の男女比と、正規職における女性の比(男性を1)
 - 30代の男女比と、特任職における女性の比(男性を1)
- 正規職と特任職の分布に差があり、かつ目標割合を下回る機関が多いことが分かる

